

おもしろ雑学

横岩の舟着場

横岩の鎮守である稲荷神社の境内に、昭和三十四年に建てられた石碑があります。この石碑には神社の由緒が刻んだ十数行の碑文があり、その冒頭に、「横岩は、大館盆地の入り口に位置し、米代川右岸の舟着場。舟宿あり、南北比内渡船場あり、往来繁く……」と、交通上の要地であることを強調しています。

古老の語るところによれば、「部落は純然たる舟場集落で、昔の舟着場は、今の墓地前の川岸にあった。板沢に連絡する舟渡し場は、現在の真中橋より少し上流にあった。」

明治時代の渡し場は、部落の回りを番で、各家が一人前ないし二人

前の株を持っていました。二人前といえば、二日続けて渡し守をします。しかし、後には、この株持ちが廃止されて、専属の渡し守が雇われ、ジャイ舟二艘と馬船一艘の渡し舟が配置されました。

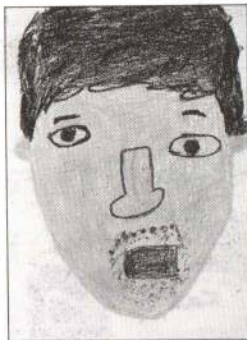
真中橋のたもとの位置に、大きな岩石がへばりついていました。今は、道路の下にかくれて見えませんが、「村名の横岩は、この岩に由来し、岩のおかげで、部落はしばしば大水をまぬがれた」と、ある古老は話していました。しかし、大水は、それもかなわなかったようで、「慶長以来歳代記」によると、宝暦五年（一七五五年）の大水害では、十一軒の家屋を濁流にまき込まれて流失されたという記録があります。

※昭和五十七年、川口小学校の低学年用資料として作成された「下川沿むかしのこと」から抜粋。

ちびっ子ニギヤラリー

おとうさん

下川沿保育所



あぶかわまことくん
ぼくが大きくなったら野球の選手になるんだ。



こばやしふみのりくん
警察官になりたいな。



さとうはるきくん
ぼくはサッカー選手になりたい。



プロレタリア文学作家 小林多喜二

小林多喜二は、明治三十六年に生まれ、同四十年に小樽に移るまでの間、旧川口村で生活していました。昭和三十二年、故郷佐藤栄治氏（元県議）が中心となって記念碑を下川沿駅構内に建立。その碑の下には多喜二の遺骨が埋葬されています。

多喜二の代表作
「蟹工船」「不在地主」ほか

人物登場

歩行者を守り続けて十年 池田作次郎さん

(餅田・71歳)

池田さんは、十年ほど前から通学する子供たちや地域住民の安全を守るため、交通の激しい餅田の横断歩道で雨の日も雪の日も休まず交通指導をしています。

池田さんが交通指導をするようになったのは、職場を退職し、地域のために何かできることはないかと思っていたところに、地区の交通安全協会の役員をまかせられたことから始めたそうです。この十年間、やめようと思ったことも何度あったそうですが、子供たちから「おじさんおはよう」という元気な声に励まされ、



れ、これまで続けてこれたそうです。この横断歩道には手押し信号機も付けられています。「信号を守らない車が突っ込んで来て、ヒヤリとすることもたびたびある。信号をよく見てほしい」と強調していました。

下川沿 ミニガイド

- ◆ 県立大館商業高校
昭和三十八年、片山に開校。現在の生徒数は五百五十八人。
- ◆ 県立大館桂高校
昭和四十七年、桜町から餅田に移転。現在の生徒数九百八十人。
- ◆ 下川沿中女子バレー部
全国大会で優勝
昭和四十六年、第一回全日本中学生バレーボール選手権大会でみごと優勝しました。
- ◆ 食肉センター
昭和五十年、食肉の衛生的な処理と、流通機構の合理的な整備を図るため、川口地区内に設置されたものです。このセンターでは、豚だけで一日最大百五十頭の処理能力があります。
- ◆ 高山・新道山スキー場
高山スキー場は、西大館町の奥に位置し、スロープの長さは約三百五十メートルです。また、新道山スキー場は下川沿中学校となり位置し、約百二十メートルのスロープとなっています。両スキー場は小学校と中学校のPTAが共同で整備したものです。スキーシーズンになりましたら一度遊びにいったらいかがでしょうか。
- ◆ 下川沿地区の主な農産物
・ 餅田の山イモ、カラドリイモ
・ 横岩のゴボウ
- ◆ ニッ山総合公園
ニッ山周辺を公園化するもので六十年・六十一年で用地買収を行ない六十二年から本格的な工事に着手する予定となっています。